

第16回 漢方相談員養成講座

気血津液 弁証

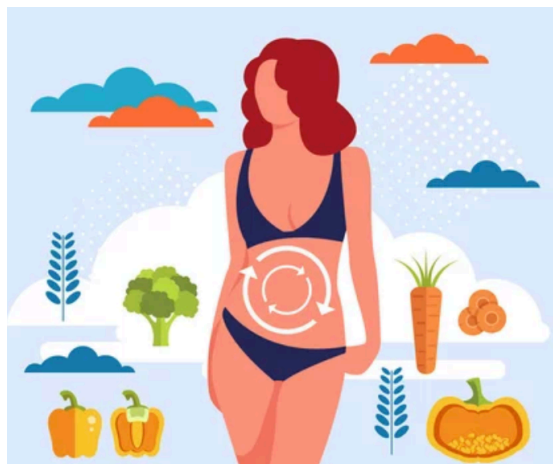
6月7日（月）リアル開催

6月8日（火）zoom開催

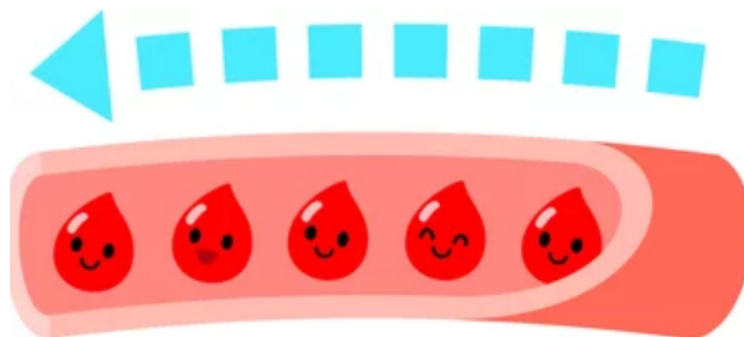
19:30スタート



気病の病証



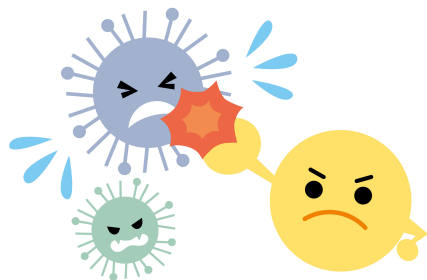
気化 きか



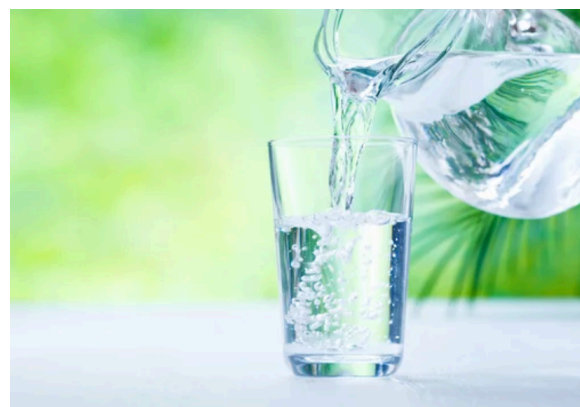
推動 すいどう



温煦 おんく



防御 ぼうぎょ



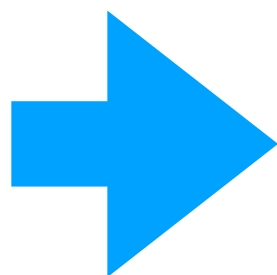
固摂 こせつ



栄養 えいよう

気には6つの作用がありましたね

気病 きびょう



気虚
気滞

ききょ
きたい

気陷
気逆

きかん
きぎゃく

気虚証（ききょ）

【概念】

臓腑の機能低下を表す症候

【症状】

眩暈・呼吸微弱・無気力・疲労倦怠・自汗
・活動時に諸症状悪化・舌淡・脈虚（無力）



めまい



無気力



ダラダラ汗

治法 補気

方薬 四君子湯

しくんしとう

四君子湯

しくんしとう

人參（にんじん）

炙甘草（しゃかんぞう）

白朮（びやくじゅつ）

茯苓（ぶくりょう）

補氣

健脾利水

気陷証 きかんしょう

【概念】

気虚のため気の昇挙運動が無力になることによって生じる、気機下陷を表す症候

【症状】

気虚の症状＋臍の下の下垂感・久瀉・痔



食後の眠気



下垂感

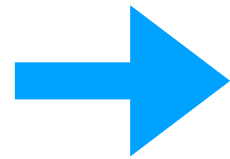


軟便

補中益気湯

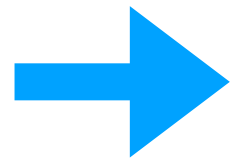
ほちゅうえききとう

黄耆 おうぎ
柴胡 さいこ
升麻 しょうま



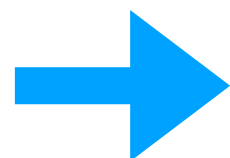
気を上に上げる昇堤作用

人参 にんじん
白朮 びやくじゅつ
炙甘草 しゃかんぞう



補気健脾作用
四君子湯から茯苓を除いた形

当帰 とうき
陳皮 ちんぴ
大棗 たいそう
生姜 しょうきょう



補血の生薬 当帰 大棗
+
脾の湿を取るためと脾陽を補うため
陳皮と生姜が入っている

気滞証

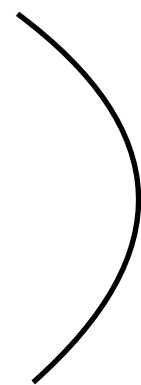
きたいしょう

【概念】

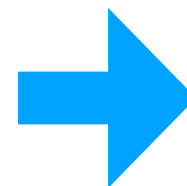
局所あるいは臓腑、経絡の気機が阻滞し、気の運行が滞ることによって生じる臓腑・経絡の機能障害を表す症候

【病因病機】

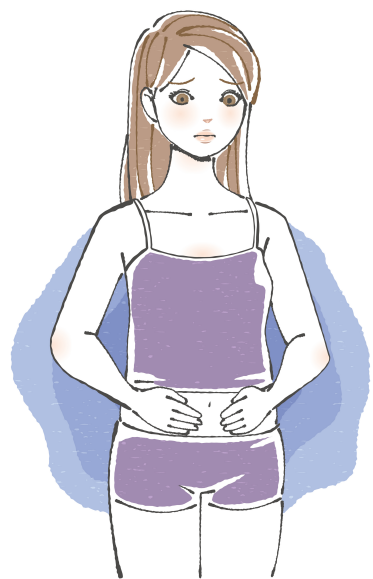
ストレス
飲食の不摂生
六淫の邪を感受



気機阻滞、不通



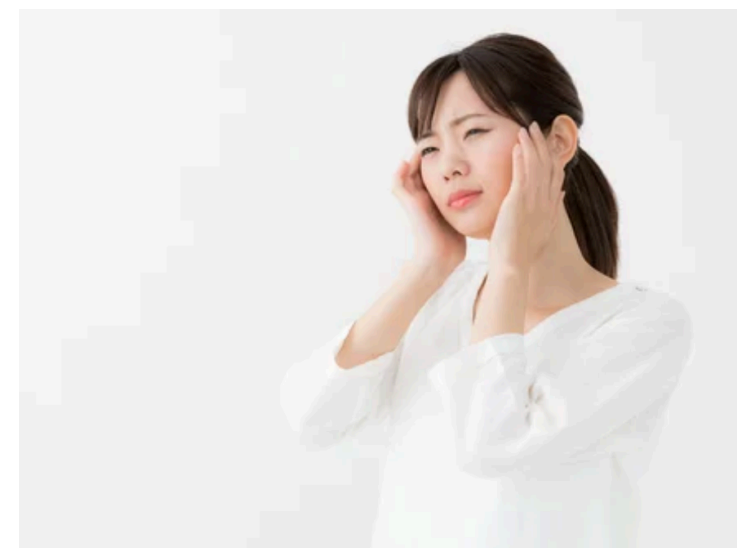
臓腑、経絡の機能障害



お腹のはり



遊走性の痛み



側頭部の頭痛

四逆散

しぎゃくさん

疏肝解鬱

そかんかいうつ

柴胡

さいこ

—

補血柔肝

ほけつじゅうかん

芍薬

しゃくやく

—

柴胡の疏肝作用
を補助

枳実

きじつ

—

炙甘草

しゃかんぞう

—

諸薬を調和する

気逆証

きぎゃく

【概念】

気の昇降が失調することによって生じる、気機上逆を表す症候



肺気上逆

症状：咳嗽・喘息

蘇子降気湯

そしこうきとう



胃気上逆

症状：ゲップ、悪心、嘔吐

半夏厚朴湯

はんげこうぼくとう



肝気上逆

症状：頭痛、めまい

加味逍遙散

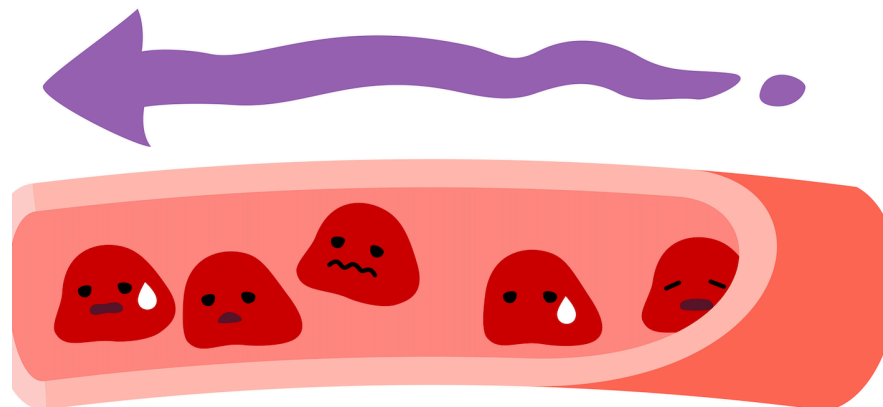
かみしょうようさん

血病の病証

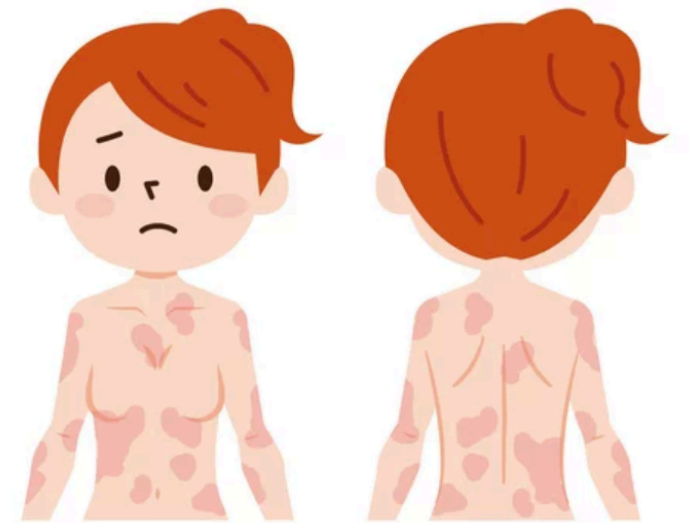
血病には 血虚、血瘀、血熱の3種類の証がある



血虚 けっきよ
貧血のこと



瘀血 おけつ
血流の悪化



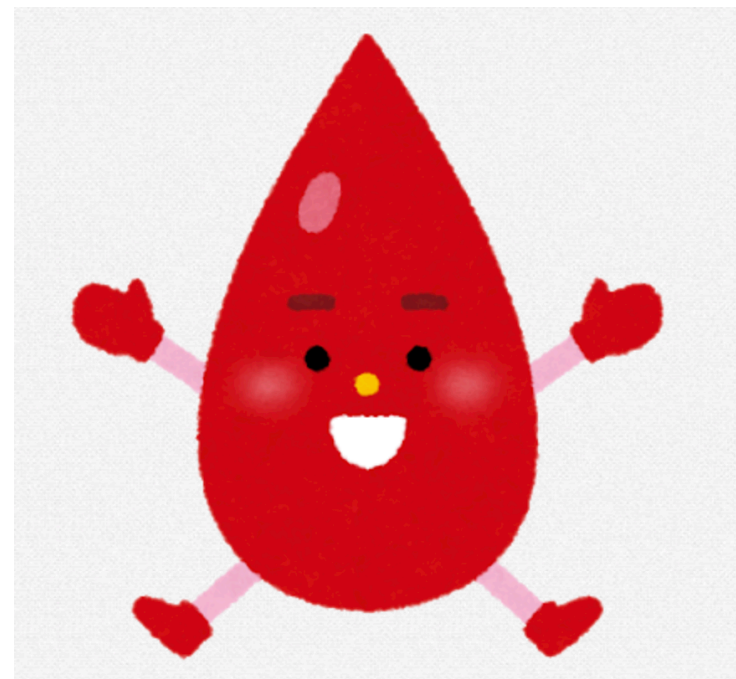
血熱 けつねつ
血が出る皮膚病

血（けつ）とは何か

血は全身を栄養し、精神活動を支える物質である

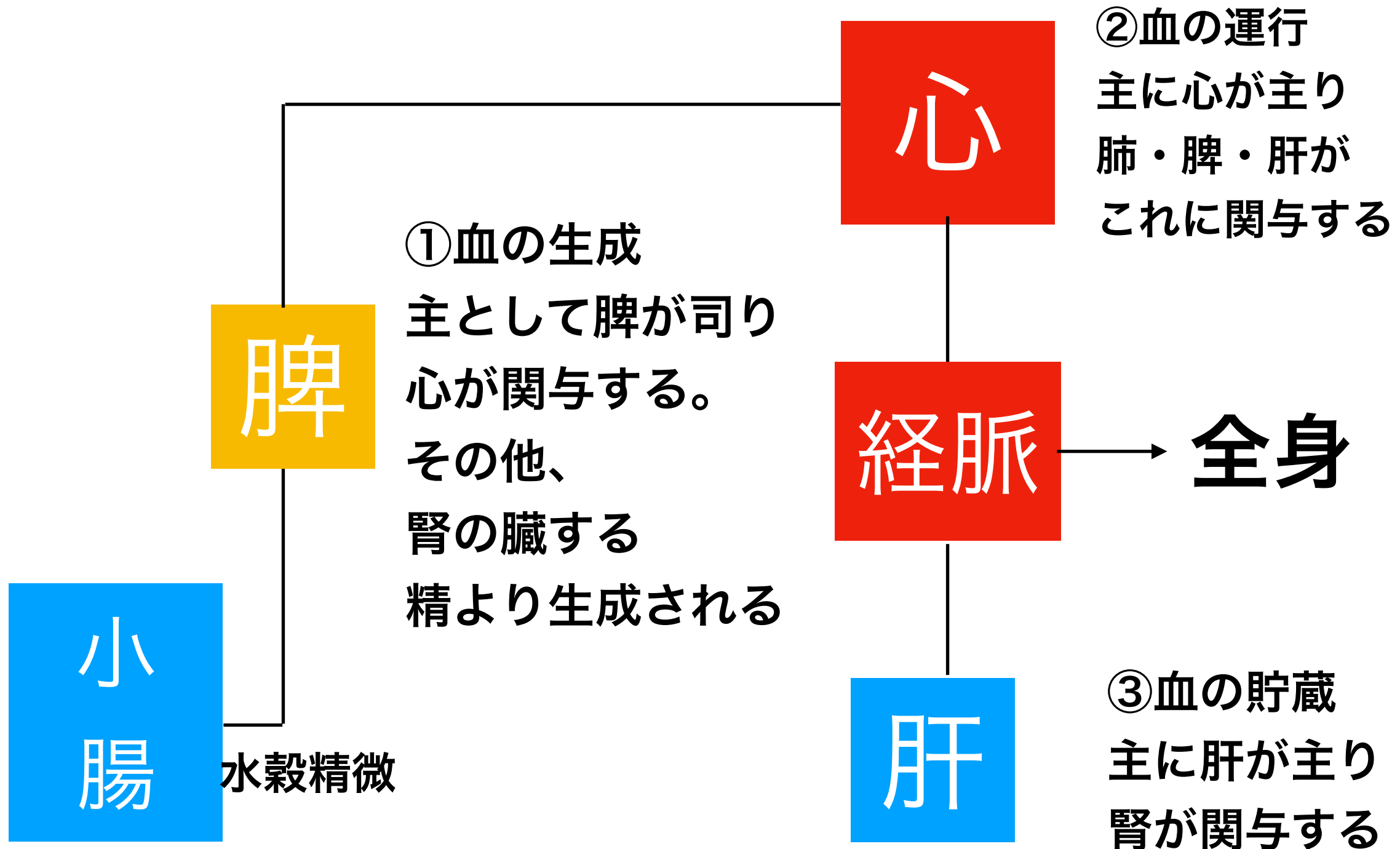
**①血は血脈中を流れる赤色の液体であり、
気や津液と同様に人体を構成し、生命活動を維持する基本物質です**

**②血は精神活動を支える物質的基礎（栄養源）となっており、血が
欠乏すると多種の精神的な症状（失眠、健忘、昏迷、不安）があら
われます**



血（けつ）の生理代謝

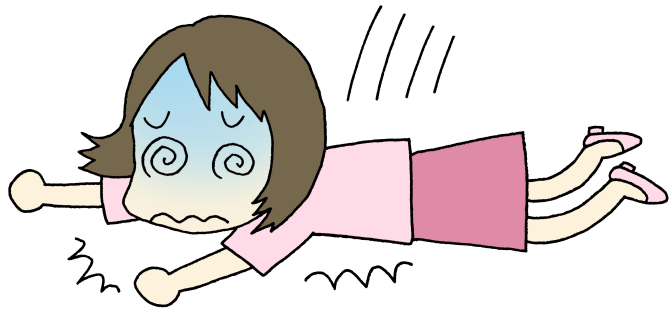
血の生成は脾、運搬は心、貯蓄は肝が主に行う



血虚証（けっきょしょう）

【概念】

血の不足によって臓腑、経脈が滋養されないために生じる全身虚弱を表す症候



【症状】

顔色蒼白或いは萎黄・唇や爪や色がうすい・眩暈
・心悸・不眠・手足のしびれ、舌淡白・脈細
・月経失調（過少月経、周期の遅れ、閉経）



萎黄



動悸



不眠

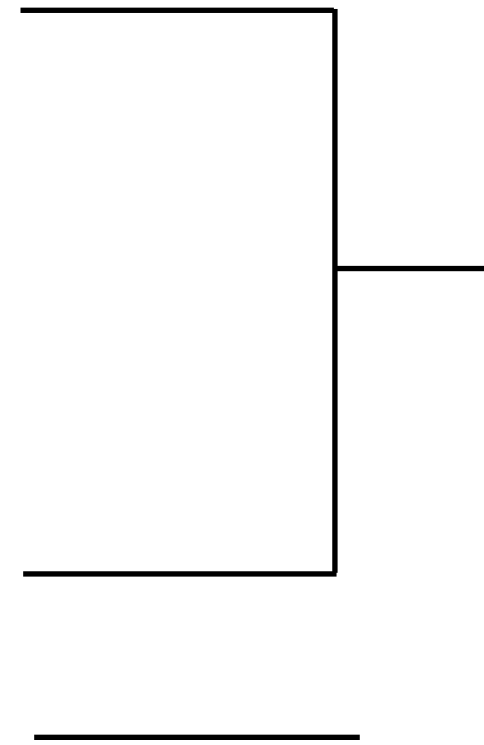
四物湯 しもつとう

熟地黄　じゅくじおう

当帰　とうき

芍薬　しゃくやく

川芎　せんきゅう



補血

ほけつ

活血

かっけつ

血瘀証 (けつおしょう)

【概念】

瘀血の阻滞りによって引き起こされる病証

血瘀証は次の5タイプがあります

- | | | | |
|-------|---------|-------|----------|
| ①気虚血瘀 | ききょけつお | ②血虚血瘀 | けっきょけつお |
| ③気滞血瘀 | きたいけつお | ④寒凝血瘀 | かんぎょうけつお |
| ⑤血熱血瘀 | けつねつけつお | | |



月経痛



子宮筋腫



肩こり

気虚血瘀 (ききょけつお)



【概念】

血瘀証と気虚証が同時に存在する症候

【病因病機】

気虚⇒血の運行無力⇒血瘀

疲労倦怠・呼吸微弱・無気力・自汗＋疼痛（拒按）・
舌紫暗、あるいは瘀斑

【治法 方薬】

補気行血 補陽還五湯 ほようかんごとう
婦宝当帰膠

血虚血瘀 (けっきょけつお)

【概念】

血瘀証と血虚証が同時に存在する症候

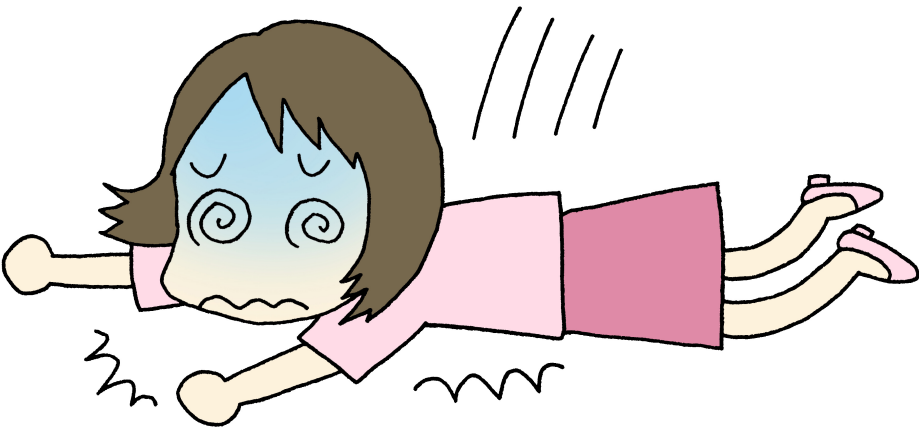
【病因病機】

瘀血阻滯⇒新血の生成阻害⇒血虚

眩暈・心悸・不眠・舌淡＋疼痛（拒按、痛みの部位は固定的）
・舌紫暗、あるいは瘀斑・脈澀

【治法 方薬】

養血活血：桃紅四物湯 とうこうしもつとう
血府逐瘀丸 けっぷちくおがん



寒凝血瘀（かんぎょよくけつお）



【概念】

寒邪の血脈凝滞によって生じる、
局所の血行障害を表す症候

【病因病機】

寒邪が血脈を侵襲⇒血行凝滞⇒瘀血

手足の疼痛（暖めると軽減）・手足が冷たくなる紫暗色になる 或いは
少腹部疼痛・寒がり手足が冷たい・月経後期（経血は紫暗色で血塊を伴う）
舌淡暗・苔白・脈沈遅澁

【治法 方薬】

温経活血：当帰四逆湯　とうきしぎゃくとう

温経湯　うんけいとう

血熱血瘀（けつねつけつお）



【概念】

血瘀証と熱証が同時に存在する症候

疼痛（刺痛、灼痛、冷やすと軽減する）・出血
・腫瘤・舌暗紅、瘀斑・脈洪＋発熱・脈数

【治法 方薬】

破血下瘀：桃核承気湯 とうかくじょうきとう

釜底抽薪 ふっていちゅうしん



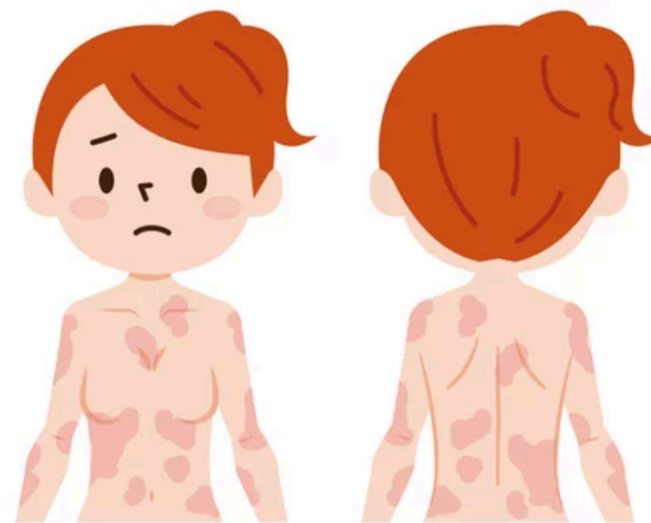
血熱証 (けつねつ)

【概念】

外感熱病で熱邪が血分に侵入する場合、あるいは内傷雑病で血分に熱がある場合に出現する症候で、出血を特徴とする



発熱が悪化



皮膚病



不正出血

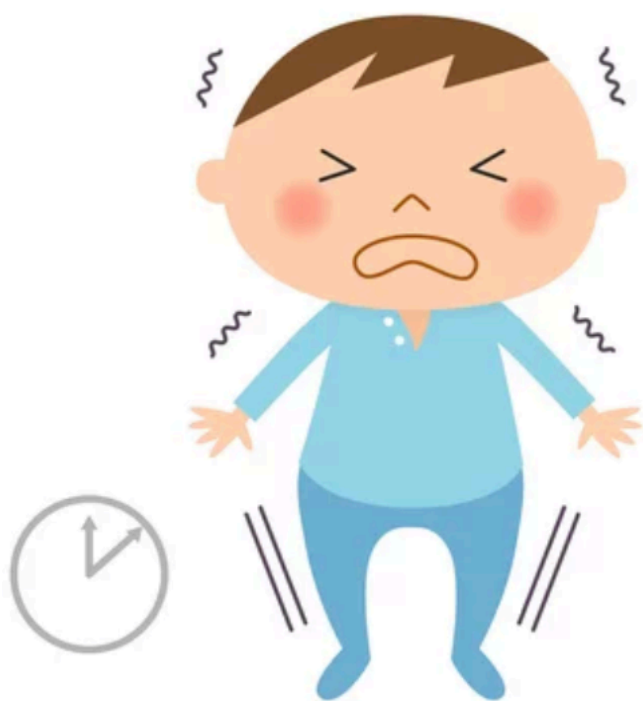
治法方薬

清宮泄熱 清宮湯

清熱涼血 犀角地黄湯

平肝熄風薬（へいかんそくふう）

風には外風・内風があり、外風は疏風し、内風は平熄する。
肝経に入って内風を平熄し肝陽を平定する薬物を平肝熄風薬という。
高熱による意識障害・痙攣・顔面紅潮、頭痛、しびれ、めまい、痛み、
顔面麻痺などに使用される



天麻（てんま）



ラン科のオニノヤガラ

性味 甘、平

帰経 肺

①平肝熄風・定驚

肝陽上亢による眩暈・頭痛・ふらつきなどの症候に、

釣藤鈎・石決明・山梔子などと用いる

天麻鈎藤飲・半夏白朮天麻湯

②通絡止痛

風寒湿痺の関節痛・しびれなどに、秦艽・羌活・川芎などと用いる

肝腎両虚の肢体無力・しびれ・麻痺などに、杜仲・牛膝・当帰などと使用する

釣藤鈎（ちょうとうこう）



アカネ科のカギカズラの鈎棘

性味 甘、微寒

帰経 肝・心包

①熄風定驚・平肝清熱

熱極生風の高熱・痙攣には羚羊角・桑葉・菊花・白朮などと用いる

羚羊角鈎藤湯 れいようかくこうとうとう

肝陽上亢の頭痛、めまいに

天麻・夏枯草・石決明などと用いる 天麻鈎藤飲

②輕清透熱

風熱の頭痛・目の充血や、斑疹の透発が不十分な時に、辛涼解表薬や

透疹薬の補助として用いる

白蒺藜 (びやくしつり)



ハマビシ科のハマビシの未成熟果実

性味 辛・苦、微温

帰経 肝・肺

①平降肝陽

肝陽上亢の眩暈・頭痛に、釣藤鈎・菊花・芍薬などと持ちいる

②疏肝解鬱

肝気鬱結による胸脇部が張って苦しい・胸脇痛・乳汁が出ないなどの症候に、香附子・鬱金・青皮などと使用する

③疏散風熱・明目止痒

風熱による目の充血・流涙などに、菊花・連翹・決明子などと用いる。

④その他

行気活血にも働くので、気滞血瘀の無月経・下腹痛などに用いる

代赭石（たいしゃせき）



天然の赤鉄鉱石

性味 苦、寒
帰経 肝・心包

①平肝清熱

肝陽上亢の頭痛・眩暈・耳鳴りなどに、石決明・夏枯草・竜骨・牡蠣などと用いる 鎮肝熄風湯 ちんかんそくふうとう

②鎮逆降気

痰濁による噎気・吃逆・嘔吐などに、旋覆花・半夏・生姜などと用いる
旋覆花代赭石湯 せんぷくかたいしゃせきとう

気逆の呼吸困難に、実喘には蘇子・半夏などと、虚喘には人參・山藥などと用いる

③涼血止血

血熱の吐血・鼻出血などには、生地黄・白芍・竹筴などと使用する

石決明（せっけつめい）



ミミガイ科のアワビ類の貝殻

性味 鹹、微寒

帰経 肝・肺

①涼肝熄風

肝陽上亢の眩暈に、菊花・枸杞子・生地黃・白芍・女貞子などと用いる
熱極生風（肝熱風動）の痙攣に、釣藤鈎・夏枯草・菊花などとする

②退翳明目

肝火による目の充血・腫脹・疼痛や角膜混濁などに菊花・桑葉・などと用いる

③その他

清虚熱にも働くので、陰虚の骨蒸勞熱に、地骨皮・青蒿・知母などと用いる

地竜（じりゅう）



フトミミズ科の内容物を
去って乾燥したもの

性味 鹹、寒

帰経 肝・腎・肺

①清熱熄風・定驚

高熱の煩燥・痙攣に、単味を煎服するか、釣藤鈎・全蝎・石膏などと用いる

②清肺平喘

肺熱の咳嗽・呼吸促迫・呼吸困難に単味の粉末を服用するか、杏仁・銀杏などと使用する

③行経通絡

風寒湿痺による関節の強い疼痛に、天南星・乳香・没薬・烏頭などと用いる

中風 補陽還五湯

④利水通淋

熱結膀胱の尿閉や排尿困難・排尿痛に滑石・木通・車前子などと用いる

白僵蚕（びゃっきょうさん）



カイコガ科の蚕の幼虫が
ハクキョウサンビョウキンにかかった物

性味 鹹・辛、平

帰経 肝・肺

①熄風解痙・化痰

熱性痙攣に喘鳴をともなうときに全蝎・胆南星・天麻などと用いる

②祛風泄熱

風熱の頭痛・流涙・咽喉痛などの症候に、桑葉・荊芥・薄荷などと使用する

③消腫散結

瘰癧（頸部リンパ腫）・痰核（しこり）などに単味の粉末を服用するか、玄参・貝母・牡蠣・夏枯草などと用いる

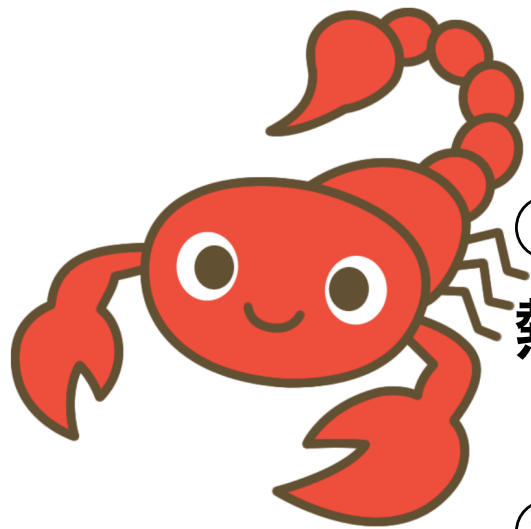


全蝎（ぜんかつ）



トクサソリ科のキョクトウサソリを
塩水に入れて乾燥したもの

性味 甘・辛、平。有毒
帰経 肝



①熄風止癇

熱性癇攣に羚羊角・大青葉・黄連などと用いる

②活絡止痛

風湿痺の関節痛に、単味を吞服するか、烏頭・乳香・地竜などと用いる

③攻毒散結

皮膚化膿症・頸部リンパ節腫・しこり・耳下腺炎などに、単味の
粉末を吞服するか、山梔子・白芷などと用いる

蜈蚣（ごしゅう）



オオムカデ科のアカズムカデや
台湾ンオオムカデなどの虫体

性味 辛・温、有毒

帰経 肝



①熄風止瘛

肝風内動による肢体の瘛攣・牙関緊急・後弓反張などに使用する

②行経通絡

顔面神経麻痺や風湿痺の関節痛に防風・白僵蚕などと用いる

③攻毒散結

頸部リンパ腫瘍・しこり・皮膚可

開竅薬（かいきょうやく）

開竅薬とは芳香があって、主に通関開竅・蘇醒神識に働く薬物である。

心に入って邪を除き、閉塞した心竅を開くことにより神志を回復させて、意識を蘇醒させる事ができる



意識障害
昏睡



脳血管障害



てんかん

牛黄（ごおう）

ウシ科ウシの胆嚢もしくは胆管中に
病的に生じた結石

性味 苦、涼
帰経 心・肝



①開竅豁痰

熱病の痰熱蒙閉竅による意識障害・うわごと・高熱・煩躁や中風の意識障害に用いる。

②熄風定驚

熱盛による痙攣・意識障害・高熱に、熄風止痙の釣藤鈎・全蝎などを使用する

③清熱解毒

頸部リンパ腫・しこり・肺化膿症・虫垂炎・乳香・没薬・麝香などを使用する

麝香 (じゃこう)



シカ科のジャコウジカの雄の袋状腺囊
の分泌

性味 辛、温
帰経 十二経

①開竅醒神

高熱による意識障害・痙攣・脳血管障害による意識障害・喘息意識障害などに
閉証に用いる

②通経達絡

腹腔内腫瘍・無月経に活血化瘀の三稜・莪朮・桃仁・紅花・などと使用する

③活血消腫・止痛

打撲ない出血による腫脹・疼痛にしようする

菖蒲（しょうぶ）



サトイモ科のセキショウの根茎

性味 辛・苦、温

帰経 心・脾・胃

①除痰開竅

痰濁閉心竅による意識障害・うわごと・舌苔が厚膩などの症候に半夏・竹筴などと用いる

②醒神健脳

心神不寧による驚きやすい・怖がる・不眠・狂躁状態・健忘などの症候に、遠志・竜齒・朱砂などと使用する

③化湿開胃

湿困脾胃による食欲がない・少食・胸腹部が張る・舌苔が膩などの症候に蒼朮・厚朴・半夏などと用いる

次回研究会

7月5日（月） リアル開催

7月6日（火） ZOOM開催

両日とも19：30 開始です